

令和3年

## 委託事業所における労働災害発生状況

当協会に労働・社会保険事務を委託している事業所における、令和3年1月～12月までの労働災害の発生状況がまとまりました。

全体の発生件数は38件であり、その内、業務災害は37件（うち特別加入者4件）、通勤災害は1件でした。前年比でみると15件の減少（製造業で顕著）となりましたが、各事業所においては引き続き安全管理へのご努力をお願いしたいと思います。

以下、災害の内容について分析した結果は、図1～図6のとおりです。

- ① 業種別発生件数では、製造業が12件（31.6%）と全体の3割強を占め、同じく商業・サービス業12件、建設業4件の順で多く発生しており、製造業と第3次産業での災害多発傾向が続いています。
- ② 事故の型別状況を見ると、転倒事故が9件と最も多く、雪などで凍った路面、水に濡れた床などで多く発生しています。また、建設・運輸・林業などの屋外型産業では、墜落・転落、激突・飛び降りや飛来・落下による災害が目立ちました。特に、トラックのステップなどからの転落事故が多く見受けられたほか、チェーンソーや剪定用バリカンの取り扱い作業での事故が多く発生しました。
- ③ 製造業では、食料品製造業7件、機械・金属製品製造業4件という状況になっていま

す。動力機械（ベンダーなど）に巻き込まれる事故、グラインダーによる切子が飛来した災害も発生しています。

- ④ 年代別では、労働力の高齢化が進んでいる結果、50歳代以上の件数が14件と全体の36.8%を占めており、筋力や反射神経の低下を考慮した作業方法を工夫するほかに、腰痛予防のために重量物を取り扱う際に台の高さを調整するなどの負担軽減策を講ずる必要があります。
- ⑤ 災害の規模をみると、災害全体に占める休業4日以上災害の割合は、令和3年は52.6%で、災害の重篤化が見て取れます。

災害の概略は以上ですが、全産業を通じて冬場の転倒事故が多いことから、滑りやすい場所の認識を共有し、防滑シューズを使用するなど適切な対策を講じていきたいものです。ご安全に！

